



## 第57回「おかねの作文」コンクール

秀作

# どう使うかでお金は変わる

埼玉県・富士見市立東中学校 1年 鈴木 志野

私は小さい頃からお金を貯めています。そのお金は、毎月もらうお小遣いや、祖父母からもらって貯めたものです。

しかし、小学校高学年になると、欲しい物がたくさん出てきました。何年間で貯めてきたお金を使うのはもったいない気もしましたが、欲しい物を買いたいという誘惑に勝てず、ついにお金を使う決意をしたのです。

最初は少し使うだけでもドキドキしたお金でしたが、使っていくうちにもったいないという感覚が薄くなり、少し興味をもっただけでお財布からお金を取り出している自分がいました。少しだけだからと軽い気持ちで使っていたお金はどんどん少なくなり、無くなっていくことすら考えなくなっていた頃、親に注意をされました。

「最近、お金を使いすぎじゃない？」

そんなことはないだろうとお金を数えてみた私は、絶句しました。たった1年半で2万円も使っていたのです。貯めるのにすごく時間がかかったのに、使うのはあっという間なんだと、お金を貯める難しさに気づいたのです。大きなショックを受けた私はお金を使うことにルールを決めました。

それは、お金を使う時に毎月予算を決めること、本当に欲しいかどうかを考えて買うことです。私は少し興味をもっただけで買う癖があったので、それを意識して変える努力が必要でした。癖を変えるのは簡単ではなく、買いたい気持ちが勝ってしまい、ついつい商品に手が伸びてしまいます。気軽に買っていた物を買えなくなり、我慢することがつらくなりました。昔はお金を貯めることが楽しかったのに、今の自分はお金を使うことの方が楽しくなってしまったなんてと、情けなく思いました。

お金に対して考えを改めるように意識してからも、今しか買えないとか、自分には必要だ、と甘やかしてしまい、結局無駄遣いをしてしまうことはよくあ

りました。ある日、私は両親と買い物中に以前から欲しかった物を見つけて、  
「これ、前から欲しかった物だから買いたい」

と言いました。以前から欲しかった物だし、今月の予算も余っていました。自分で決めたお金のルールも守れているので当然、買える物だと思っていました。しかし、親から買っていい許可は出ませんでした。

「予算が余っていたとしても貯める努力もしてほしい。欲しい気持ちが変わらなかったら後日買おう。」

と言われました。私は納得できませんでした。

「今欲しいのに、後日だったら意味ないじゃん。」

とボソッと言うと、

「そんなに欲しかったら日が経っても気持ちは変わらないはずでしょ。」

と言われ、何も言えずにその日を終わりました。モヤモヤとした気持ちはありましたが数日後、その商品について考えなくなりました。目の前にあると欲しい気持ちは高ぶるけど、目の前に無いと欲しい気持ちがなくなったのです。あの時はあんなに光り輝いて見えたのに、見えていないだけで光が弱くなってきた気がします。何かのマジックのような感覚です。消え去ってしまった気持ちはなぜなのか、その日のことをよく思い出して考えたら、答えはありました。それは、「本当に欲しい物ではなかった」からです。

それからは、お金を使うルールを一つ増やしました。それは、「本当に欲しいと思った物でもいったん時間を置いて、気持ちが変わらなかった時だけお金を使う」です。決められた予算内で、本当に必要な物を選別し、余ったお金は貯める習慣をつけることが大事なのではないか、と考えられるようになりました。

これからは、いくら貯めることができるか、お金を貯める計画にもチャレンジしてみようと思います。